2024年2月発行

# 透析中のシャント肢血管痛に対して
# エイトを使用した一例

医療法人弘真会 二宮中央腎・健診クリニック
副主任・臨床工学技士
植木　駿一 様

**【はじめに】**

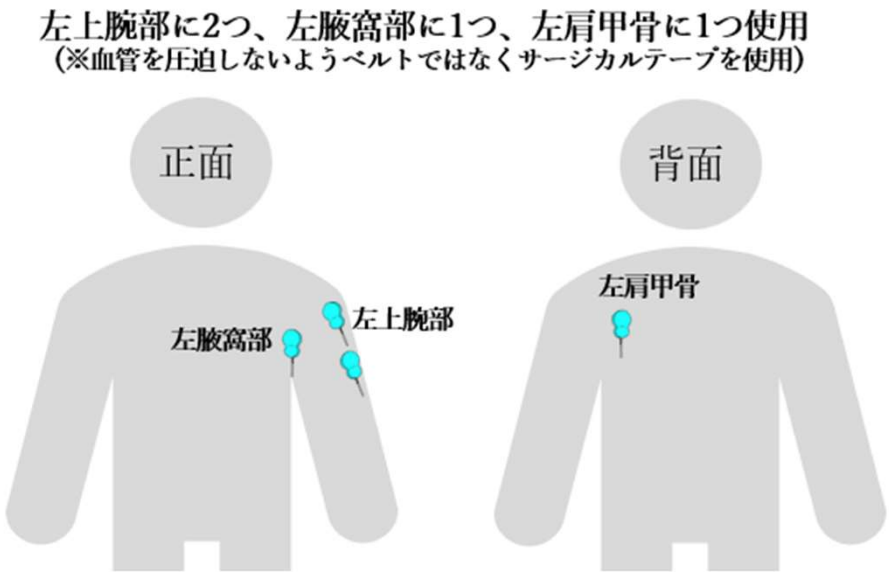
血液透析患者の抱える悩みの一つに血管痛がある。血管痛の原因は、透析で用いる穿刺針が採血や輸液で用いられる針より長く太いことによる穿刺時の刺激、血管壁や静脈弁と穿刺針の接触や、高流量を流すことによる静脈内の圧力上昇など様々である。血管痛は一度発生すると治療が終了して抜針するまで痛みが継続することもあるため、長時間痛みを我慢しなくてはならないことも多い。

今回透析時の血管痛がある患者に疼痛緩和治療器、以下「エイト」を使用する機会を得たため報告する。

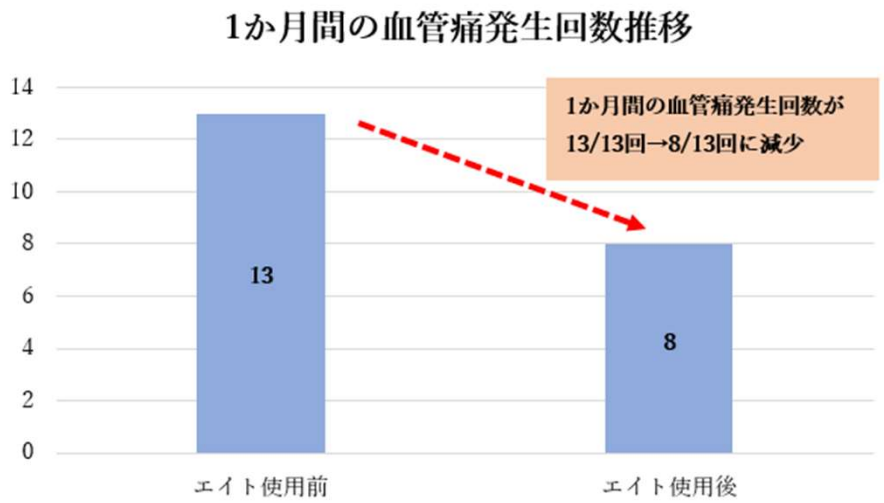
**【患者背景】**

67歳男性
原疾患：　不明、透析歴10年。
穿刺部位：左前腕、透析開始後約2時間経過すると毎回シャント肢上腕部に強い血管痛の訴えがあり血管痛発生時に湿布を使用していた。

【使用方法】
毎回透析開始直後から開始後2時間の間に、シャント肢に30分使用した。パッドは左上腕部に2つ、左腋窩部に1つ、左肩甲骨に1つ使用した。固定は血管を圧迫しないようベルトではなくサージカルテープによる固定とした。




【効果の評価】
評価項目は痛みの強さと血管痛発生頻度とし、痛みの強さの評価には、痛みの強さを0から10までの11段階で表すNRS(numeric rating scale)を用いた。エイト使用前の痛みの評価はNRSを用いた評価が10で、1ヶ月の血管痛発生頻度は13回/13回であった。エイト使用後は、血管痛発生時のNRS評価は10で変わらなかったが、1ヶ月の血管痛発生頻度は8/13回であった。また、血管痛が発生する前にエイトを使用した場合は、血管痛の発生頻度が減少したが、血管痛が発生してからエイトを使用した場合のNRS評価に変化はなかった。また、パッド装着部の皮膚反応や痛みなどの有害事象は認めなかった。



**【まとめ】**
エイト使用により、血管痛の発生頻度は減少傾向となった。
エイト使用時にも発生した血管痛は、毎回穿刺部位が若干異なることや穿刺者のスキルも一定でないこと、エイトの透析開始後の使用タイミングやパッドを当てる場所、施行時間の影響など様々な原因が考えられた。今後血管痛発生時と発生しなかったときの条件を比較することで、より効果的な施行条件を見つけることができると考えられた。有害事象も認められなかったことから、血管痛を訴える患者に対して使用する価値のある装置と思われる。

本製品の薬事承認された使用目的は、「2 種類の交番磁界を経皮的に照射し、神経を刺激することで疼痛を緩和させる」ことです。本症例報告は疼痛緩和を目的にエイトを使用した際の臨床使用経験を示しておりますが、実際にエイトに使用される際は上記使用目的およびエイトの添付文書等に記載の使用方法等をご確認頂いたうえで、それぞれの患者様への使用適否をご判断いただきますようお願い申し上げます。

薬事情報
販売名：エイト
承認番号：30400BZX00015000
一般的名称：交番磁界治療器
医療機器クラス分類：クラスⅡ
（管理医療機器　特定保守管理医療機器）

株式会社P・マインド
〒861-5525
熊本県熊本市北区徳王2-8-6
TEL　096-223-6826
MAIL contact@p-mind.co.jp